



マッチングアプリで出会った人妻に
筆おろししてもらう大学生の俺

CG枚数：基本3枚、差分含む総数24枚
＋おまけ(テキストなしver)21枚

「今日はよろしくね♡」

「は、はい」

大学生の俺はマッチングアプリで知り合った若妻の片倉未沙子（かたくらみさこ）さんとラブホテルに来ていた。

彼女いない歴〇年齢の俺は誰でもいいから彼女をつくって童貞を卒業したくて、いま流行りのマッチングアプリに登録したのだが、マッチングしたのは結婚3年目の未沙子さん。

既婚者がこういうアプリを使っていることに驚いたが、メッセージでやり取りするうちに仲良くなり、女性経験の話になった際に童貞であることを打ち明けると、反応はまさかの「もちろってあげようか？♡」だった。

業者やサクラといった単語が頭をよぎり、怪しいとは思ったが、こんなチャンス滅多にないので平日の昼間に会う約束をして現在に至る。

未沙子さんと実際に会ってみるとかなり若い見た目で、おそらく27歳ぐらいだろうか。

結婚してから旦那さんと夜の営みがなくなったことで、刺激を求めてアプリを使うようになり、過去に童貞の男性と寝て以来、童貞狩りにハマっているとのこと。

旦那さんが仕事中の昼間に、こうして若い男性とよく会っているらしい。



「もしかして緊張してるっ」

「そ、そうですね。こういう所に来るのも初めてなので…」

こんな美人と一緒にラブホテルにいるなんて夢みたいだ。しかもこれから童貞をもらってくれるなんて。

「ふふ、かわいい♡何だかあたしまでドキドキしてきちゃう。」

時間はいっぱいあるし、ゆっくり楽しみましょうね…って、やだ、もうそんなに大きくなってるといけない。」

「あ、これは、その…」



「ズボン越しでも分かるほど勃起してるわよ。すごく苦しそう。」

早くしたくて我慢できないのね。いいわよ、さっそくズボン脱いで、その大きくなったおち○ちん見せて。」

「は、はい」

「お、大きい…。ズボン越しでも何となく分かってたけど、生で見るとやっぱり大きい。たぶんあの人よりも…」

（女性にち○こを見られるのは恥ずかしいな…。それもこんな美人で年上のお姉さんに。緊張はするけど、今までにないくらい勃起してて、ちよっと痛い）

「これは、しゃぶりがいいがそう。ねえ、童貞ってことはフェラも初めてかしら？」

「はい…！」

「ふふ、そうなのね。じゃあ、いっぱい気持ちよくしてあげる♥
すぐにイッちゃだめだからね。悪いけどあたしも我慢の限界だし、早速だけど…あゝん」

（ドキドキ）



「ん、んっ...」

じゅぽ、じゅぽ、じゅぽ...

（やっぱり若い子のおち○ちんはいいわ。大きくて固くて、熱い...
興奮しすぎて頭くらぐらぐらしてきちゃう）

「ぶはあ...どっっ初めてのフェエはっ」

「あ、ああ...これがフェエ。さ、最高です。
他人に扱いてもどっっのがこんな気持ちいいなんて」

「うふ、かわいい♥
でもまだ射精しちゃだめよ。ん、んっ...」

じゅぽじゅぽ、じゅぽ...

「うあ、は、激しい...！そんなに激しくしたら。
未沙子さん、俺もう我慢が...」

「へ、ひよ、ひよっ」と

「イ、イク！」



「いただきまーす」

ずぶ、ずぶ…

「あ、ああ」

「どう？女の人のアソコ、おま○この感触は？」

「暖かくて、ぬるぬるしてて、気持ちいいです。それに、うっ、締め付けてくる…！」

「ふふ、今からそんなんじゃない、動いたらどうなるのかしらね」

「ちょ、ちょっと待ってもらっていいですか？
また、すぐに射精ちゃいそうで」

「ダメ。待つてあげない。
あたしも正直、もう我慢できないの。君のおち○ちん、あたしのおま○こで味わわせて。」



ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「あ、あああ」

「は、はあ。このおち○ちん、すごくいい。気持ちいいわ。あ、あん。太くて固くて、奥まで当たる♥」

「未沙子さん、そんな激しくしたら、ダメですって」

「あ、あん。ごめんね、気持ちよすぎて、我慢できないの。腰が動いちゃう」

「くっ、は、激しい…」

ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「すみません未沙子さん、俺もう…」

「いいわ、このまま射精して。あたしのおま○こに、精液ちょうだい！」

「うあ、イ、イク…」



ドクン、ドクン…。

「うへーっ！」

ぷんぷんぷん…。

「う、まだ射精るっ！搾り取られる…」

「あ、はあ…。濃厚精液、子宮にきてるう。

あゝ、さいっこ♡」

「これがセツ〇ス。き、気持ちよすぎ」

「はあ、はあ。ふふ、童貞卒業おめでとう。

あなたのおち〇ちん。すごく良かったわ。

癖になっちゃいそう。ねえ、来週もまた会わない？」

「ぜ、ぜひ、お願いしますー！」

「ありがとう。でも次はこんな早くイッちゃダメよ。

あと、精液いっぱい溜めてきてね。全部あたしにちょうだい♡」

















「今日はよろしくね♡」

「は、はい」

大学生の俺はマッチングアプリで知り合った若妻の片倉未沙子（かたくらみさこ）さんとラブホテルに来ていた。

彼女いない歴〇年齢の俺は誰でもいいから彼女をつくって童貞を卒業したくて、いま流行りのマッチングアプリに登録したのだが、マッチングしたのは結婚3年目の未沙子さん。

既婚者がこういうアプリを使っていることに驚いたが、メッセージでやり取りするうちに仲良くなり、女性経験の話になった際に童貞であることを打ち明けると、反応はまさかの「もちろってあげようか？♡」だった。

業者やサクラといった単語が頭をよぎり、怪しいとは思ったが、こんなチャンス滅多にないので平日の昼間に会う約束をして現在に至る。

未沙子さんと実際に会ってみるとかなり若い見た目で、おそらく27歳ぐらいだろうか。

結婚してから旦那さんと夜の営みがなくなったことで、刺激を求めてアプリを使うようになり、過去に童貞の男性と寝て以来、童貞狩りにハマっているとのこと。

旦那さんが仕事中の昼間に、こうして若い男性とよく会っているらしい。



「もしかして緊張してるっ」

「そ、そうですね。こういう所に来るのも初めてなので…」

こんな美人と一緒にラブホテルにいるなんて夢みたいだ。しかもこれから童貞をもらってくれるなんて。

「ふふ、かわいい♡何だかあたしまでドキドキしてきちゃう。」

時間はいつばいあるし、ゆっくり楽しみましようね…って、やだ、もうそんなに大きくなってるじゃない。」

「あ、これは、その…」



「スポン越しても分かるほど勃起してるわよ。すごく苦しそう。」

早くしたくて我慢できないのね。いいわよ、さっそくスポン脱いで、その大きくなったおち○ちん見せて。」

「は、はい」

「お、大きい…。ズボン越しでも何となく分かってたけど、生で見るとやっぱり大きい。
たぶんあの人よりも…」

（女性にち○こを見られるのは恥ずかしいな…。それもこんな美人で年上のお姉さんに。
緊張はするけど、今までにないくらい勃起してて、ちよっと痛い）

「これは、しゃぶりがいいがもう…。
ねえ、童貞ってことはフェラも初めてかしらっ」

「はい…！」

「ふふ、そうなのね。じゃあ、いっぱい気持ちよくしてあげる♡
すぐにイッちゃだめだからね。悪いけどあたしも我慢の限界だし、早速だけど…。あゝん」

（ドキドキ）



「ん、んっ...」

じゅぽ、じゅぽ、じゅぽ...

（やっぱり若い子のおち○ちんはいいわ。大きくて固くて、熱い...。興奮しすぎて頭くらぐらぐらしてきちゃう）

「ぶはあ...。とっ、初めてのフヒンは...」

「あ、ああ...、これがフヒン。さ、最高です。他人に扱いてもあんなのがこんなに気持ちいいなんて」

「うふ、かわいい♥
でもまだ射精しちゃだめよ。ん、んっ...」

じゅぽじゅぽ、じゅぽ...

「うあ、は、激しい...！そんなに激しくしたら、未沙子さん、俺もう我慢が...」

「へ、ひよ、ひよっ」と

「イ、イク！」



「いただきまーす」

ずぶ、ずぶ…

「あ、ああ」

「どう？女の人のアソコ、おま○この感触は？」

「暖かくて、ぬるぬるしてて、気持ちいいです。それに、うっ、締め付けてくる…！」

「ふふ、今からそんなんじゃない、動いたらどうなるのかしらね」

「ちょ、ちょっと待ってもらっていいですか？
また、すぐに射精ちやいそいで」

「ダメ。待つてあげない。」

あたしも正直、もう我慢できないの。君のおち○ちん、あたしのおま○こで味わわせて。」



ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「あ、あああ」

「は、はあ。このおち○ちん、すごくいい。気持ちいいわ。あ、あん。太くて固くて、奥まで当たる♥」

「未沙子さん、そんな激しくしたら、ダメですって」

「あ、あん。ごめんね、気持ちよすぎて、我慢できないの。腰が動いちゃう」

「くっ、は、激しい…」

ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「すみません未沙子さん、俺もう…」

「いいわ、このまま射精して。あたしのおま○こに、精液ちょうだい！」

「うあ、イ、イク…」



ドクン、ドクン…。

「うへーっ！」

ぷんぷんぷん…。

「う、まだ射精るっ！搾り取られる…」

「あ、はあ…。濃厚精液、子宮にきてるう。

あゝ、さいっこ♡」

「これがセツ〇ス。き、気持ちよすぎ」

「はあ、はあ。ふふ、童貞卒業おめでとう。

あなたのおち〇ちん。すごく良かったわ。

癖になっちゃいそう。ねえ、来週もまた会わない？」

「ぜ、ぜひ、お願いしますー！」

「ありがとう。でも次はこんな早くイッちゃダメよ。

あと、精液いっぱい溜めてきてね。全部あたしにちょうだい♡」

















「今日はよろしくね♥」

「は、はい」

大学生の俺はマッチングアプリで知り合った若妻の片倉未沙子（かたくらみさこ）さんとラブホテルに来ていた。

彼女いない歴〇年齢の俺は誰でもいいから彼女をつくって童貞を卒業したくて、いま流行りのマッチングアプリに登録したのだが、マッチングしたのは結婚3年目の未沙子さん。

既婚者がこういうアプリを使っていることに驚いたが、メッセージでやり取りするうちに仲良くなり、女性経験の話になった際に童貞であることを打ち明けると、反応はまさかの「もちろってあげようか?♥」だった。

業者やサクラといった単語が頭をよぎり、怪しいとは思ったが、こんなチャンス滅多にないので平日の昼間に会う約束をして現在に至る。

未沙子さんと実際に会ってみるとかなり若い見た目で、おそらく27歳ぐらいだろうか。

結婚してから旦那さんと夜の営みがなくなったことで、刺激を求めてアプリを使うようになり、過去に童貞の男性と寝て以来、童貞狩りにハマっているとのこと。

旦那さんが仕事中の昼間に、こうして若い男性とよく会っているらしい。



「もしかして緊張してるっ」

「そ、そうですね。こういう所に来るのも初めてなので…」

こんな美人と一緒にラブホテルにいるなんて夢みたいだ。しかもこれから童貞をもらってくれるなんて。

「ふふ、かわいい♡何だかあたしまでドキドキしてきちゃう。」

時間はいつばいあるし、ゆっくり楽しみましようね…って、やだ、もうそんなに大きくなってるじゃない。」

「あ、これは、その…」



「スポン越しても分かるほど勃起してるわよ。すごく苦しそう。」

早くしたくて我慢できないのね。いいわよ、さっそくスポン脱いで、その大きくなったおち○ちん見せて。」

「は、はい」

「お、大きい…。ズボン越しでも何となく分かってたけど、生で見るとやっぱり大きい。
たぶんあの人よりも…」

（女性にち〇こを見られるのは恥ずかしいな…。それもこんな美人で年上のお姉さんに。
緊張はするけど、今までにないくらい勃起してて、ちよっと痛い）

「これは、しゃぶりがいいがもう…。
ねえ、童貞ってことはフェラも初めてかしら？」

「はい…！」

「ふふ、そうなのね。じゃあ、いっぱい気持ちよくしてあげる♥
すぐにイッちゃだめだからね。悪いけどあたしも我慢の限界だし、早速だけど…あゝん」

（ドキドキ）



「ん、んっ...」

じゅぽ、じゅぽ、じゅぽ...

(やっぱり若い子のおち○ちんはいいわ。大きくて固くて、熱い...
興奮しすぎて頭くらぐらぐらしてきちゃう)

「ぶはあ...どっっ初めてのフヘリはっ」

「あ、ああ...これがフヘリ。さ、最高です。
他人に扱いてもどっっのがこんなに気持ちいいなんて」

「うふ、かわいい♥
でもまだ射精しちゃだめよ。ん、んっ...」

じゅぽじゅぽ、じゅぽ...

「うあ、は、激しい...!そんなに激しくしたら。
未沙子さん、俺もう我慢が...」

「へ、ひよ、ひよっ」と

「イ、イク!」



「いただきまーす」

ずぶ、ずぶ…

「あ、ああ」

「どう？女の人のアソコ、おま○この感触は？」

「暖かくて、ぬるぬるしてて、気持ちいいです。それに、うっ、締め付けてくる…！」

「ふふ、今からそんなんじゃない、動いたらどうなるのかしらね」

「ちょ、ちょっと待ってもらっていいですか？
また、すぐに射精ちやいそいで」

「ダメ。待つてあげない。」

あたしも正直、もう我慢できないの。君のおち○ちん、あたしのおま○こで味わわせて。」



ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「あ、あああ」

「は、はあ。このおち○ちん、すごくいい。気持ちいいわ。あ、あん。太くて固くて、奥まで当たる♥」

「未沙子さん、そんな激しくしたら、ダメですって」

「あ、あん。ごめんね、気持ちよすぎて、我慢できないの。腰が動いちゃう」

「くっ、は、激しい…」

ずぼ、ずぼ、ばん、ばん…。

「すみません未沙子さん、俺もう…」

「いいわ、このまま射精して。あたしのおま○こに、精液ちょうだい！」

「うあ、イ、イク…」



ドクン、ドクン…。

「うへーっ！」

ぷんぷんぷん…。

「う、まだ射精るっ！搾り取られる…」

「あ、はあ…。濃厚精液、子宮にきてるう。

あゝ、さいっころ♡」

「これがセツ〇ス。き、気持ちよすぎ」

「はあ、はあ。ふふ、童貞卒業おめでとう。
あなたのおち〇ちゃん。すごく良かったわ。
癖になっちゃいそう。ねえ、来週もまた会わない？」

「ぜ、ぜひ、お願いしますー！」

「ありがとう。でも次はこんな早くイッちゃダメよ。
あと、精液いっぱい溜めてきてね。全部あたしにちょうだい♡」















